

行政の窓

平成19年度 北海道木材需給見通しについて

【需要について】

○18年度の需要量は、製材用及び合板等とはともに前年並みですが、パルプ用は輸入原料が減少するため、17年度実績（828万m³）に対し1.2%減の817万m³の見込みとなっています。

○19年度は製材用が減少傾向にあるものの、パルプ用及び合板等が増加傾向にあると予測されていることから、18年度見込み（817万m³）に対して1.1%増の826万m³の見通しです。

○なお、18年度の需要割合はパルプ用が56%と最も高く、19年度も同様の傾向で推移する見通しです。（18年の全国見通しでは43%）

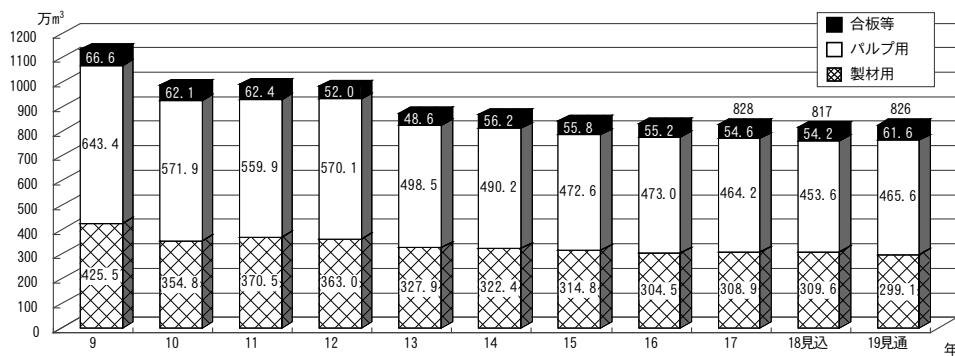


図1 需要量の動向

※棒グラフの上段、外書きの数値は合計値で、四捨五入のため図の数値と合わない場合があります。

【供給について】

○18年度の供給量は、前年に引き続き風倒木の出材（パルプ原料）で道産材は増加しますが、輸入丸太等の減少が顕著で、17年度実績（831万m³）の1.6%減の818万m³の見込みです。

○19年度の供給量は輸入チップの増加が予測されることから、18年度見込み（818万m³）の1.5%増の830万m³の見通しです。

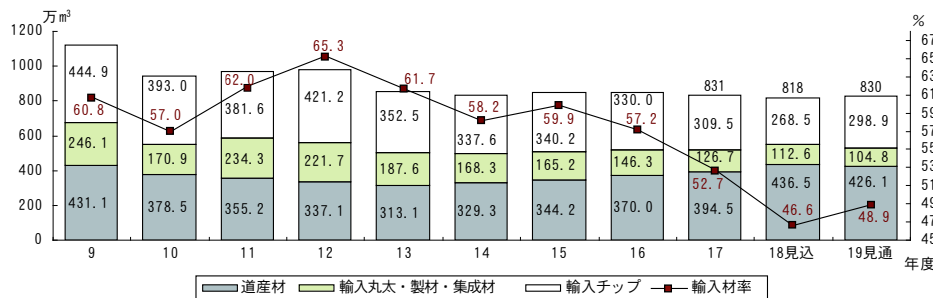


図2 供給量の動向

※棒グラフの上段、外書きの数値は合計値で、四捨五入のため図の数値と合わない場合があります。

※数値は原木消費量または原木換算値

【輸入材について】

○北海道の輸入材率（輸入量／総需要量）は、輸入材が減少したため18年度は17年度実績（52.7%）に比べ6.1ポイント減少して、46.6%となる見込みです。

○19年度は、18年度見込みに比べ輸入丸太は減少するものの、供給量の多い輸入チップの大幅増が予測されるため2.3ポイント増加して、48.9%となる見通しです。

（水産林務部林務局林業木材課木材産業グループ）